



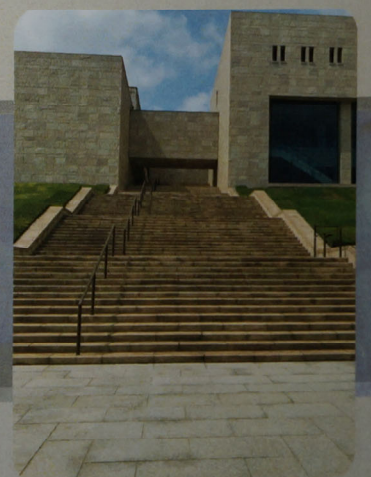
# MOA美術館



**重**要文化財「山中常盤物語絵巻」は又兵衛絵巻の最高傑作として知られていますが、全12巻が同時に展示されることは滅多にありません。今回はリニューアルオープンを記念して3年ぶりの一挙公開となり、展示総延長は70メートルを超える。MOA美術館は、重要文化財4点、重要美術品3点を含む14点の又兵衛作品を所蔵し、又兵衛を語る上で欠かせないコレクションをなしています。本展では、「山中常盤物語絵巻」以外の又兵衛コレクションもあわせて重要文化財3件、重要美術品3件を展覧します。奔放自在な描線の水墨画、静謐な物語絵、大和絵的な描法による歌仙絵など幅広い又兵衛の画業をご鑑賞ください。

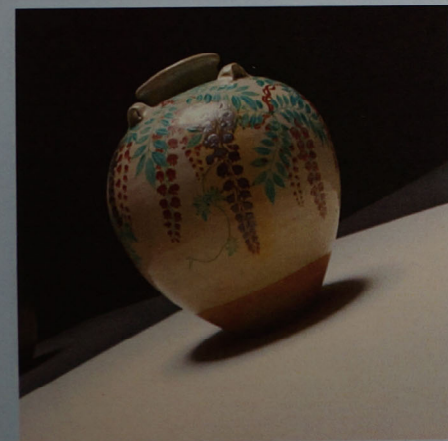
国宝3点、重要文化財67点、重要美術品46点  
を含む約3500点を所蔵。

MOA美術館は昭和57年に開館してから36年が経過しました。この度展示空間の刷新と設備の更新を目的として、改修工事を実施いたしました。ロビーエリア、展示スペースの設計は、世界を舞台に活躍する現代美術作家杉本博司氏が建築家榊田倫之氏と共に主宰する「新素材研究所」が手掛けました。古代や中世、近世に用いられた素材や技法を、現代にどう再構築して受け継いでいくかという問いに取り組み、様々な試みの中から、日本の伝統的な素材を用いた現代的な空間を生み、あたらしいMOA美術館を体現します。





重要文化財 山中常盤物語絵巻  
作者 岩佐又兵衛勝以 江戸時代 (17世紀)



国宝 色絵藤花文茶壺  
作者 野々村仁清 江戸時代 (17世紀)

## 美術館を 愉しむ



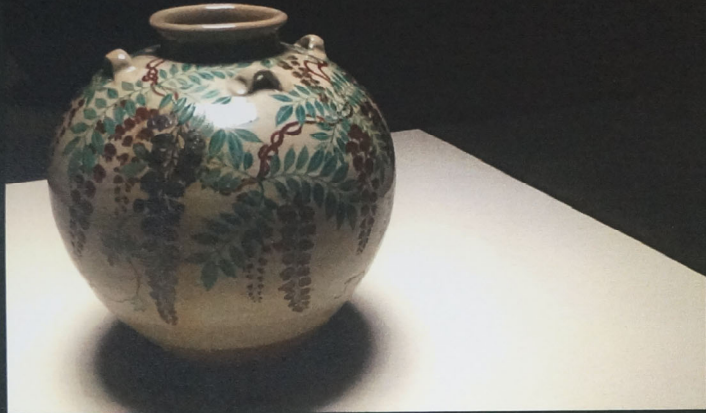
熱海駅からバスで7分ほどの所にあるMOA美術館。昭和57年に開館し、古代や中世、近世に用いられた素材や技法で設計されたロビーや展示スペースはまるで美術館そのものも芸術品のような。私達が訪れた際には丁度『奇想の又兵衛 山中常盤物語絵巻』という特別展示が行われており、運良く拝見することができた。12巻からなるこの物語は、各巻12メートルを超える長大な絵巻物だ。左上の写真はその山中常盤物語絵巻の一部である。人や自然、感情の描写が鮮烈な印象を受けた。現在この展示は終了している。もちろん特別展示だけではなく、常設展示では国宝や重要文化財などといった歴史ある美術品が多く展示されている。

それから展示品だけではなく、緑や紅葉など四季折々の風情が愉しめる茶の庭。尾形光琳が晩年に棲んだ屋敷(復元)での日本文化体験などができる。緑豊かで美しい石庭を見ながらのお茶は心を落ち着かせる。ミュージアムショップでは当館オリジナルグッズや伝統工芸作家による貴重な限定品を購入することができる。お土産品として購入するのも良いだろう。歴史のある絵画・彫刻・書跡・工芸等の作品、四季を楽しむ事ができる茶の庭、大人の熱海旅行を楽しみたいという方にうってつけだ。特別展示も頻繁に行われており、いつ来館しても楽しむ事ができる。



# MOA 美術館

「海に見える美術館」、MOA 美術館。国宝3点、重要文化財65点を含む約3500点が貯蔵されている。絵画や彫刻作品のみならず、円形ドームを使った日本最大の万華鏡作品や、伝統芸能を鑑賞できる能楽堂もある。自然豊かでリラックスのできる雰囲気は、老若男女が集まる憩いの場でもある。様々な時代や文化が色濃く出た作品を鑑賞できるこの美術館で、作品を通したタイムスリップを是非味わって欲しい。



## 色絵藤花文茶壺 野々村仁清

江戸時代の陶工である野々村仁清によって作られた国宝作品。ろくろの技に優れていたと言われており、その繊細な美しさと相反する重厚さに驚くだろう。大きく咲いた藤の花が深く鮮やかに描かれている作品だ。

## 黄金の茶室

大正十四年、豊臣秀吉が正親町天皇に茶を献じるため黄金の茶室と道具で茶会を行った。それに基づき復元制作されたものである。復元とはいえ使われている物は全て純金。当時の茶会を目の当たりにしたような輝きを感じることができる。



## 王と王妃 ヘンリー・ムア

相模灘を一望できる広場に設置された作品で、イギリスの彫刻家ヘンリー・ムーアによって作られた。熱海の海を眺める二人とともに絶景を堪能することができる。景色さえも作品にしてしまうような美しい空間。



## 山中常盤物語絵巻 伝 岩佐又兵衛勝以

重要文化財である山中常盤物語絵巻の全十二巻。合計七十メートルにも及ぶ大作である。一番の見どころである大勢の武士たちの戦いのみならず、当時の文化、色彩感覚、美的感覚までもを観察することができる。



## 海景 - ATAMI 杉本博司

代表作「海景」シリーズのうち、熱海の海を撮影した作品。真っ暗な空間に浮かび上がる作品は海を目の前にした時の心の静けさを思わせる。モノクロの作品だが、太陽の光や波の動きを見ることができるだろう。



# MOA 美術館

「美」を楽しみ、豊かな心を育む美術館

熱海にある MOA 美術館。海の景色が見え、木々に囲まれている美術館です。

JR 熱海駅からバスで約 7 分で行くことができます。

バスで坂道を登り続ける道の途中、熱海の街の雰囲気を楽しむこともできます。

バスを降り、そこに見えるのは MOA 美術館の大きな入り口。

端には小さな滝が流れ、そこで自然を堪能することができます。

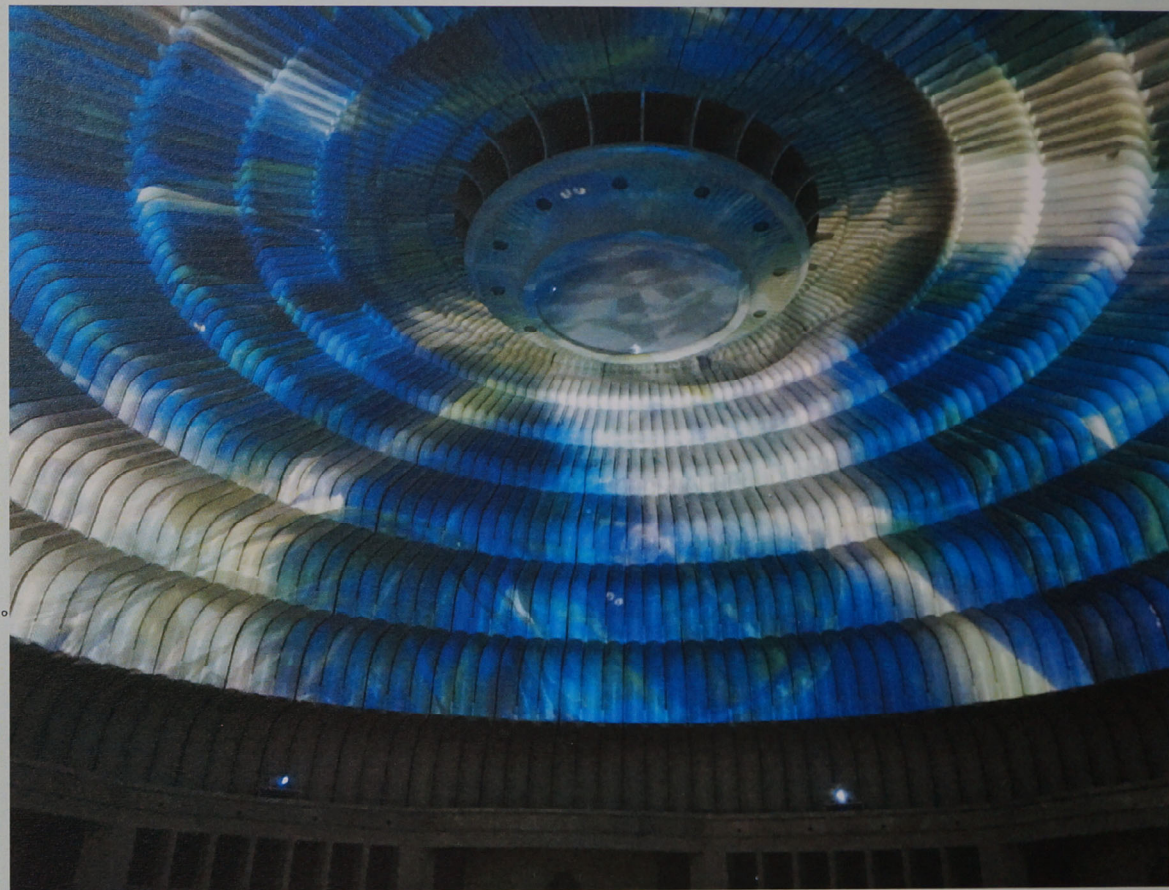
いくつものエスカレーターを越えた先には豊かな美術品が貴方をお待ちしております。



黄金の茶室

豊臣秀吉が茶中に運び、自ら茶をたてていました。

これはレプリカになっていますが、桃山文化のひとつの象徴として美術市場の意義を探究したものになっています。



源氏物語図屏風

中学生の時に歴史の教科書で見たことを覚えている方なら驚くであろう作品。

右は光源氏が少女若紫を柴垣越しに見る「若紫」の巻

左は夕霧が嵐の日に、紫の上を垣間見る「野分」の巻



MOA 美術館上階から見える熱海の景色中は広く、ゆっくりと見たい方は休憩を挿みながら見るのもおすすめです。



☞ ムア広場 - 本館前は相模灘を望む広場。本館は3階建てで、1・2階に計10室の展示室があり、他に能楽堂、「黄金の茶室」、レストランなどがあります。外壁は、インド岩砂岩の割肌仕上げとしている。メインロビーは、1階、2階吹抜けの大展望室となっており、前面のガラスは幅32m、高さ8mです。

【杉本博司氏の海景-ATAMI-】

この熱海の海景は、一見すると写真とは思えないほんやりとした抽象的な画にも見えます。大気を通る光は、何か敬虔はものを感じさせられます。「黒」「素材」というキーワードが適当だと思います。



map

「源氏物語図屏風」

『源氏物語』を題材にした絵を「源氏絵」といい、原典成立後まもなく絵画化が始まったとされる。以後、中世、近世を通じて、様々な画派によって描かれ、日本絵画の普遍的・古典的テーマとなった。



MOA

美術館



静岡県熱海市の高台にある美術館です。世界救世教・教祖の岡田茂吉（おかだもきち、1882年 - 1955年）が創業者で、彼のコレクションを基盤に、国宝3件、重要文化財67件、重要美術品46件を含む約3500件を所蔵しています。その内容は、絵画・書跡・工芸・彫刻等、日本・中国をはじめ東洋美術の各分野にわたり、美術的にも、研究的にも大きな魅力と価値のある作品によって構成されています。

熱海駅から直行バスがあって、約15分かかります。

しかし！suicaやpasmoなどが使えないので、190円を用意しなければなりません。（自分も友達に細かいお金を貸したから……（・（エ）・））

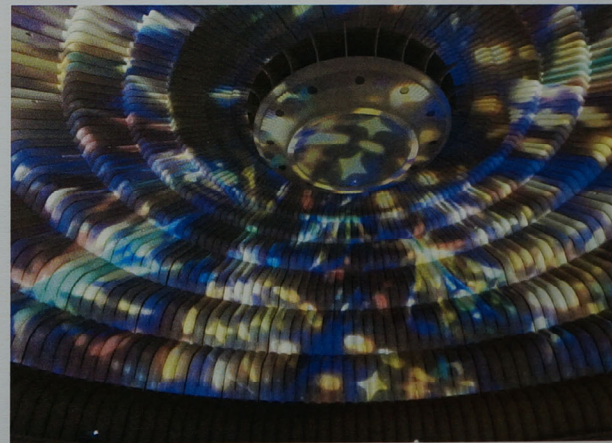
# MOA美術館



開館時間…9時30分～16時30分（木曜休館）

アクセス…JR 熱海駅から、バスで約7分

海を一望出来る高台に建つ美術館。昭和五十七年に開館してから、三十六年が経過し改修工事を行い、二〇一七年にリニューアルオープンしました。スタイリッシュな外観は日本美術の最先端を感じることが出来ます。現代美術作家・杉本博司氏、建築家・榊田倫之氏による空間設計により、美術品がより美しく見える空間に生まれ変わりました。



また、美術館の楽しみは展示品の鑑賞だけではなく、

展示スペースに

向かうまでのホールは、天井まで工夫が凝らされています。

館内にはカフェレストランや、和食処もあり一日かけてゆっくりと美術館を楽しむことができます。

豊臣秀吉の黄金の茶室を再現したものです。太閤は組み立て式の黄金の茶室を京都御所に運び、自ら茶を点てて献上したといわれています。

美術館に展示されているものも、太閤のものと同じように組み立て式となっており、スクールプログラムに活用したり、出張展示なども行っています。



黄金の茶室

岩佐又兵衛勝以作、浄瑠璃物語絵巻。色彩の華麗な作品です。各種の高価な顔料を惜しげもなく使い、艶麗な色調で描かれているのため、非常に目を引きまします。そして、全長は約百三十メートル。どこまでも続く絵巻物は、一見の価値ありです。



浄瑠璃物語絵巻

野々村仁作。咲き誇る藤花が一面に描かれた華やかな茶壺。よく見ると、藤花は様々な顔料を用いて描かれており、奥行を感じます。

展示室は、江戸黒とも呼ばれる黒漆喰を用いた壁に囲まれています。緊張感すら漂う洗練された空間が、展示品を引き立てています。映り込みの少ないガラスを使用するなど、工夫が垣間見える場所です。



色絵藤花文茶壺

静岡県熱海市にあるこの美術館は、昭和57年に開館され36年の年月が経過した。日本を美術を中心とした美術館が展示されており、他にも能楽堂や茶室などといった日本の文化を体験できる。



### 本館へと続く広場

本館への道程の途中にはムアスクエアと呼ばれる広場があり、エントランスへと海拔約250mに位置する相模灘を望む広場だ。イギリスの彫刻家ヘンリー・ムアの「王と王妃」が設置されている。



岩佐又兵衛勝以「官女図」

右の作品は、又兵衛の官女図という作品。岩佐又兵衛勝以は土佐信来流を称し、古典画題の作品を多く残した。本図は、歌仙絵のひとつと考えられ、のびのびと描線による姿態表現は見事である。豊頬な顔立ちには、又兵衛風と称された人物図の特色が表れている。



▲「翠竹野雀」竹内栖風  
「翠竹野雀」という作品は、風に揺れる竹に一羽の雀が舞う一瞬を軽妙なタッチ、大きな竹二本を大胆な構図でなおかつ鮮やかな色彩で表している。竹内栖風が晩年、神奈川県湯河原で作画にあっていた頃の作品である。

MOA美術館創設者、岡田茂吉による作品。書家だけではなく画家や歌人との芸術作品にも手を伸ばし、評論家としても活動。多彩な才能を持っていた。



▲「雪月花」岡田茂吉

尾形光琳が自ら描いた図面と大工の仕様帖、茶室起し図が含まれる小西家文書と呼ばれる資料に基づき、堀口捨巳博士の監修により復元した屋敷「光琳屋敷」賤ヶ岳七本槍の一人であり、豊臣家の重臣、片桐且元が薬師寺の普請奉行をつとめた際の宿舎の正門「片桐門」などが点在している。

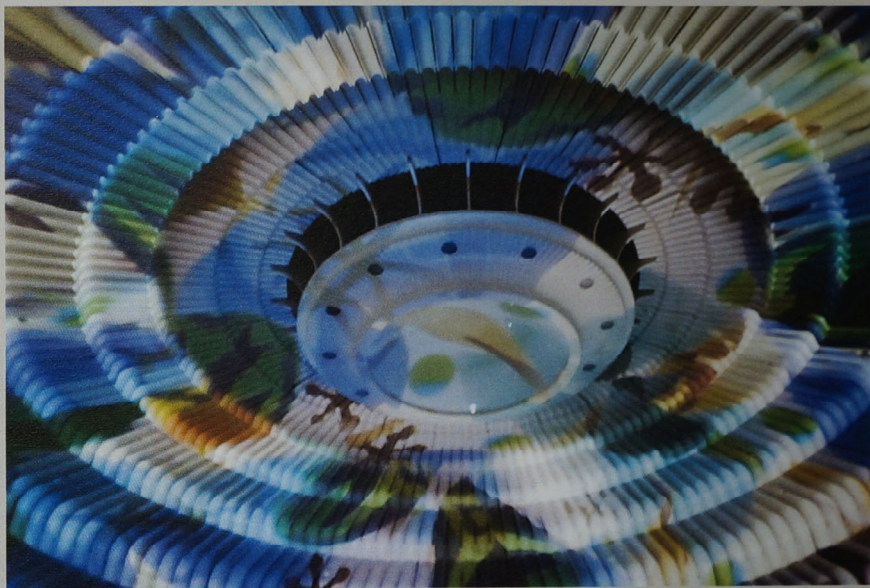


茶の庭には、大広間に飾られた茶道具を鑑賞しながら、黒漆塗りのテーブルとイスの立札席で、季節の和菓子や抹茶、干菓子と煎茶が楽しめる茶室「一白庵」や、備前池田藩の筆頭家老、伊木忠澄が余生を送った岡山の荒手屋敷に存在した20に余る茶室の内の一つである「大爐の間」と呼ばれた茶席を移築した、茶室「樵亭」

山頂に佇む、海に見える美術館

# MOA 美術館

## 1日目



歴史に触れる、  
数々のアート

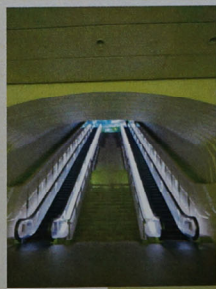
MOA美術館は、熱海駅からバスに揺られること約7分、相模灘を見渡す高台にある「海に見える美術館」だ。国宝、重要文化財などを含む様々な美術品を所蔵している。そのコレクションは、絵画、書跡、工芸、彫刻芸術など多様な分野に渡る。

2017年には世界的に活躍する現代美術作家・杉本博司氏によってリニューアルされた「美術品が最も美しく映える空間」で、永く愛されてきた日本美術の名品を楽しむ。

また、山の斜面を登る、グランド・シヨンの美しいエレベーターや、巨大な天井万華鏡、本館への階段からの壮大な景色など、美術品の他にも様々なスポットが存在し、あなたを飽きさせないだろう。

### 創設の歴史

MOA美術館は昭和57年に岡田茂吉によって創設された美術館だ。岡田茂吉は「優れた美術品には、人々の魂を浄化し、心に安らぎを与え、幸福に誘う力がある」とし、戦後日本美術を蒐集し、箱根美術館を創設した後、MOA美術館を会館した後、日本文化の情報発信や美術・工芸の発展を目的とし、「美」を楽しむことを通じて豊かな心を育み、児童生徒や学校教員の美術への理解を深める様々な活動も行っている。



エレベーター



本館への道



入口

### 茶屋で過ごす、 穏やかな時間。

展示物を見ながら館内を一周すると、いくつかのカフェや食事処が立ち並びエリアがある。その中でも、茶室「白庵」を紹介したい。

美術館から外に少し歩いた場所に「白庵」はある。木々に囲まれた日本庭園風の建物は、美術館とはまた違った落ち着いた雰囲気がある。SNSにも映えること間違いなしだ。

店内では、抹茶と和菓子がリーズナブルな値段で楽しめる。メニューは、愛知県半田市の老舗・松華堂の干菓子とのセット「干菓子と抹茶セット 寿」、地元静岡県熱海市の和菓子屋・わかなやが提供する和菓子、竹風とのセット「和菓子と抹茶



干菓子と抹茶セット 寿



茶室「白庵」

茶セット竹」、静岡県藤枝市の手摘み茶葉を使用した「和菓子と手摘み煎茶セット竹」の三種類。白庵で美術館を回った疲れを癒し、ひと時の穏やかな時間を過ごしてみたいかがだろうか。



茶屋への道



立礼席

創設者・岡田茂吉

